

東北海区沿岸水温予報(2002年)

海域	経過 (1~6月)	現況(7月上旬~ 7月下旬)	見通し (9~11月)	見通しの背景	特異現象 (漁況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水試発表)	津軽暖流域の水温は平年並~やや高めで推移 津軽暖流の東方への張り出しは平年並で推移	沿岸定地水温は平年並~やや高め この期間定線観測なし	津軽暖流域の水温は平年並 津軽暖流の東方への張り出しは平年並	8月の対馬暖流の勢力が平年並であること、親潮第1分枝の張り出しが北偏傾向(弱勢)であることから判断した。	特になし
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水試発表)	1 月中旬頃に親潮系冷水が県北部沖合に南下しており、2月上旬頃には本県沿岸全域に見られ、県南部沖合には冷水域が存在していた。また、県北部沖合には暖水塊が見られた。3月中旬まで親潮第1分枝が本県沿岸全域に細く分布しており、親潮第二分枝に連なる冷水は本県沖合に広く分布していた。19 月~3月までは平年並から高めで推移した。4月~5月にかけて10 以上の暖水が本県沖合を北上しており、6月下旬には本県北部沖合で暖水塊が認められた。親潮系水は100m 深で県北部沖合に分布していた。4月~6月までは平年並からやや高めで推移した。	7 月上旬の観測では、本県10 海里以内の表面は全域14~16 台で平年並、本県沖合10~70海里では表面で14~18 台で平年並、100m 深で2~19 台で場所によっては2 以下の水帯が認められ、県南部沖合で平年より4 程度低め、他の海域は平年並~3 程度高めであった。	本県沿岸10 海里以内は平年並~やや高め、本県沖合10~70海里は表面では平年並、100m 深では平年並~やや低め基調で推移する。	仙台管区气象台が発表した3 月ヶ月気象予報によると、8 月から10 月までは気温は平年並で推移する可能性が高い。また、東北水研で発表した現況によると、津軽暖流の下北半島東方への張り出しが強く、本県沿岸中部まで影響することが考えられる。7 月の海洋観測で、親潮第二分枝に連なる冷水が深度50~70m 以深に分布が認められた。以上のことから判断した。	県内主要6 港における7 月中旬の水揚げ状況で、スルメイカ(いか釣り)は低調で、対前年の23%にあたる23トンの水揚げがあった。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水試発表)	2~3 月:親潮系冷水が波及し、2月は表面・100m 深ともに平年より2~3 低い水、3月は2~4 低い水で広く覆われた。南部沖合海域には南からの北上暖水が波及し、4~6 平年より高い海域も見られた。 4~5 月:冷水の影響が弱まり、4月は表面で平年より概ね1~3 高め、100m 深は概ね平年並。5月は表面、100m 深とも平年より1~4 高めの水に広く覆われた。 6月:北・中部沖合海域を中心に表面で平年より1~3 ,100m 深で平年より1~2 低めの水が広がった。	表面は広く15~17 台の水に覆われ、平年より0~2 低めとなった。100m 深は142'E 以東の中部沖合海域を中心に2~5 台の親潮系冷水が広がり、この海域では平年より3~7 低めとなった。北部海域および沿岸海域は概ね平年並となった。	142°E 以西の海域では表面・100m 深とも平年並で推移する。 142°E 以東の海域では表面・100m 深とも平年よりやや低め~極めて低めで推移する。	8月上旬の調査で親潮第2 分枝に連なる1 台の冷水(平年より低め~極めて低め)が142~143'E の沖合海域に存在し、この海域で1kt 前後の南下流が見られた。親潮第2 分枝から連なる冷水は今後も断続的に波及すると考えられる。黒潮はN 型基調で推移すると予測され、黒潮系暖水が沿岸に急激に波及するとは考えにくい。	・スルメイカが例年より早く5 月から漁獲された。6月中旬から仙台湾内(近5 年間では例年なし)でスルメイカ釣り船操業。サンマの定置網入網が早め。(例年6 月、今年5 月)カツオ・マイワシ北上遅れ。6 月カタチイワシ漁獲少。昨年多く見られたトビウオが今年は少。 ・2月以降、本県沿岸にまき網漁場が形成されていない。イワシ類(セグロ、マイワシ)の水揚げは低調、サバ類の水揚げはみられない。 ・今漁期中、オキアミ漁場形成がほとんどみられなかった。 ・コウナゴ漁の低調 ・竿釣り・まき網によるカツオの水揚げが一月程度遅れたが、水揚量は平年並みに推移している。 ・沖合タコゴ漁で漁獲されるミスダコの割合が例年より高い(近年はヤナギダコの割合が高かった)。 ・夏季(5~6 月)のカツオ・メジ曳縄漁場の形成が無かった。 6 月、夜光虫による赤潮が沿岸一帯にみられた。
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試発表)	2月:距岸50海里以内に親潮系冷水が南下し、全域で降温が進んだ。50海里以東は沖合からの暖水波及により平年並み~やや高め。 3月:沖合からの暖水波及が強まり、平年より高めとなった。親潮系冷水はごく沿岸を南下するが弱め。 4月:50海里以東は依然、県南部を中心に高め基調で推移しているが、30海里以内の沿岸部では親潮系冷水の南下が強まり、平年並み~やや低めとなった。 5月:沖合からの暖水波及は弱まり、沿岸には親潮系冷水が南下し、平年並み。 6月:距岸50海里以内は広く南下流に覆われた。水温は平年並み。東経143' 以東には黒潮系暖水が分布。 7月:沿岸は親潮系冷水に覆われ、平年より低め。特に、県中南部沖50海里付近では極めて低め。	(7月17~21 日調査より)表面付近で昇温が進んだが、大きな変化はみられず、沿岸は親潮系冷水に覆われた。塩屋崎沖、東経144' 30' 付近の下層には5 台の冷水域がみられた。	50 海里以内の沿岸部で親潮系冷水が分布する見通しから、また親潮系冷水の勢力が平年より強いこと、期間後半は黒潮系暖水が断続的に波及する。	黒潮統流が離岸傾向で推移する見通しから、また親潮系冷水の勢力が平年より強いことから、やや低め~平年並み。また、季節変動で黒潮系暖水の勢力が強まる期間後半は、暖水波及が見込まれる。	

常磐南部 ～鹿島灘 (茨城県沿 岸; 茨城水試 発表)	1月:黒潮が犬吠埼沖に存在し、沖合から沿岸域に黒潮系暖水が波及していた。2月:黒潮が犬吠埼沖に存在し、沿岸域に暖水舌が形成されていた。また、常磐南部沖に親潮系冷水が差し込んでいた。3月:常磐南部沿岸域に親潮系冷水が差し込んでいた。黒潮は犬吠埼より南を流れていたが、沖合域に黒潮系暖水が波及していた。4月:黒潮は犬吠埼沖を東に流れていたが、常磐沖の暖水塊から沿岸域に黒潮系暖水が波及していた。常磐南部沿岸域に親潮系冷水が差し込んでいた。5月:常磐南部海域に親潮系冷水が差し込み、鹿島灘には黒潮系暖水が波及していた。6月:沿岸域に親潮系冷水が差し込み、沖合域に黒潮系暖水が波及していた。	7月:鹿島灘沖に黒潮系暖水が波及している。常磐海域に親潮系冷水が差し込んでいる。	9～10月は黒潮が接岸傾向で鹿島灘に黒潮系暖水が断続的に波及し、常磐南部に親潮系冷水が差し込む。11月以降は離岸傾向で常磐南部に沖合から黒潮系暖水が断続的に波及する。9～10月は鹿島灘で「平年並～やや高め」、常磐南部では「平年並～やや低め」、11月以降は鹿島灘で「平年並～やや低め」、常磐南部では「平年並～やや高め」で推移する。	房総沖の黒潮の離接岸変動が7～10月は接岸傾向、11月以降は離岸傾向と予測されている(中央水研)。黒潮が接岸傾向の場合、鹿島灘では暖水が波及するため高め傾向となり、常磐南部には親潮系冷水が差し込むため低め傾向となる。離岸傾向の場合、鹿島灘は低め傾向となり、常磐南部では沖合から暖水が波及するため高め傾向となる。	マダコが不漁であった(12～1月)。 ゴボウセグロの来遊が少なかった(11～1月)。 船曳網漁業によるオキアミ・コウナゴ漁が不漁であった(2～6月)。 まき網漁業によるサバ・マイワシ漁が極めて低調に推移した(1月～)。 まき網漁業によるカクチイワシ漁が好調に推移した(2～6月)。 常磐沖合の暖水塊から黒潮系暖水が波及した(2下旬～4月)
--	---	--	--	---	--

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10～70海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4～	+4.0～	+6.0～	+2.4～	+4.0～	+4.0～
高い(7.5%)	+1.6～+2.3	+2.5～+3.9	4.0～+5.9	+1.6～+2.3	+2.5～+3.9	+2.5～+3.9
やや高い(20%)	+0.7～+1.5	+1.0～+2.4	1.5～+3.9	+0.7～+1.5	+1.0～+2.4	+1.0～+2.4
平年並み(40%)	+0.6～-0.6	+0.9～-0.9	1.4～-1.4	+0.6～-0.6	+0.9～-0.9	+0.9～-0.9
やや低い(20%)	-0.7～-1.5	-1.0～-2.4	1.5～-3.9	-0.7～-1.5	-1.0～-2.4	-1.0～-2.4
低い(7.5%)	-1.6～-2.3	-2.5～-3.9	4.0～-5.9	-1.6～-2.3	-2.5～-3.9	-2.5～-3.9
極めて低い(2.5%)	-2.4～	-4.0～	-6.0～	-2.4～	-4.0～	-4.0～